

もりた ぎろう
森田 義郎(1881~1940)



歌人。周布郡新屋敷村(現、西条市)出身。本名は義良。20歳で上京し、国學院(現、国學院大学)などで学ぶ傍ら、『心の花』編集人の石樽千亦の紹介で正岡子規に短歌を学び、根岸短歌会に入門、愛媛出身でただ一人の子規門の歌人となる。高洪虚子らと子規の看病をしながら短歌について教えを受け、わずか23歳で短歌の入門書『短歌小梯』を出版し、伊藤左千夫と歌誌『馬酔木』を創刊した。義郎はその生涯で千数百首の短歌を詠んだが、その作品は万葉調で恋歌、時事歌に優れている。

略歴

- 明治14(1881)年4月6日 周布郡新屋敷村に生まれる。
- 明治28(1895)年 愛媛県尋常中学校(現、県立松山東高等学校)に入学。俳句を始める。
- 明治31(1898)年 万葉集を筆写した。『心の花』に短歌を投じた。
- 明治33(1900)年 上京。国學院と国語伝習所に学ぶ。子規を訪ねる。
根岸短歌会に出て、伊藤左千夫を知る。
- 明治35(1902)年 全日本歌学会の幹事となる。子規の看護当番を引き受ける。
- 明治36(1903) 『短歌小梯』を刊行。左千夫と『馬酔木』を創刊する。後に左千夫とあわず、『馬酔木』から去る。
- 明治37(1904)年 新聞『日本』に入社。『馬酔木』に復帰
- 明治39(1906)年 『万葉私刪』を刊行
- 明治44(1911)年 剃髪得度する。政教社に復帰し、『日本及日本人』の記者になる。
- 大正6(1917)年 第13回衆議院議員総選挙に立候補した押川方義と河上哲太の応援のために、五百木瓢亭、寒川鼠骨らと帰郷
- 大正13(1924)年 寒川鼠骨、香取秀真、柴田宵曲らと根岸短歌会を再興
- 昭和7(1932)年 「石鎚百首」を発表
- 昭和14(1939)年 「老の歯がみ」を発表
- 昭和15(1940)年1月8日 60歳で永眠

(写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・大日本和歌研究会『和歌講義録』 大日本和歌研究会 1913年
- ・山上次郎『歌人森田義郎と正岡子規・瓢亭』 古川書房 1972年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』 愛媛県 1984年